

ギガビット イーサネット インターフェイスを使用した CSS 11000 の Catalyst 6000 への接続

内容

[概要](#)

[はじめに](#)

[表記法](#)

[前提条件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[設定手順](#)

[CSS 11000](#)

[Catalyst 6000](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、ギガビット イーサネット (GE) インターフェイスを使用して、コンテンツ サービス スイッチ (CSS) を Catalyst 6000 シリーズのスイッチに接続する適切な手順について説明します。

はじめに

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

前提条件

この文書を読むには、次の知識が必要です。

- 基本的なCSS設定の基礎。
- 基本的なCatalystスイッチ設定の基礎。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- CSSソフトウェアバージョン5.0ビルド33
- すべてのCSSハードウェアリビジョン。
- Cisco IOSシステムソフトウェアが稼働するCatalystスイッチ。

このマニュアルの情報は、特定のラボ環境に置かれたデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。実稼動中のネットワークで作業をしている場合、実際にコマンドを使用する前に、その潜在的な影響について理解しておく必要があります。

設定手順

次の項では、CSSとCatalystスイッチを設定する手順を説明します。

CSS 11000

通常の負荷に照らして、CSSインターフェイスを1Gbits-FD-no-pauseに設定します。これが完了した場合は、Catalystインターフェイスでポートネゴシエーションをディセーブルにし、Catalystの送受信フロー制御をオフにします（次のCatalyst設定手順を参照）。

```
CSS11800(config)# interface 2/1
CSS11800(config-if[ 2/1])# phy 1Gbits-FD-no-pause
```

使用率が高いと思われる場合は、CSSを1Gbits-FD-sym-asyncに設定することを検討してください。これを行う場合は、Catalystで送信フロー制御と受信フロー制御を必ずオンにします（次のCatalyst設定手順を参照してください）。

```
CSS11800(config)# interface 2/1
CSS11800(config-if[ 2/1])# phy 1Gbits-FD-sym-async
```

Catalyst 6000

1Gbits-FD-no-pauseは、Catalystでポートネゴシエーションを無効にし、送受信フロー制御をオフにします。

```
cat(config)#int GigabitEthernet 1/1
cat(config-if)#speed 1000
cat(config-if)#flowcontrol send off
cat(config-if)#flowcontrol receive off
```

上記で1Gbits-FD-sym-asyncを設定した場合は、Catalystで送受信フロー制御をオンに設定します。

```
cat(config)#int GigabitEthernet 1/1
cat(config-if)#speed 1000
cat(config-if)#flowcontrol send on
cat(config-if)#flowcontrol receive on
```

関連情報

- [CSS 11000 シリーズ コンテンツ サービス スイッチのハードウェア サポート ページ](#)
- [CSS 11500 シリーズ コンテンツ サービス スイッチのハードウェア サポート](#)
- [CSS 11000 ソフトウェアのダウンロード](#)
- [CSS 11500 ソフトウェアのダウンロード](#)
- [テクニカルサポート - Cisco Systems](#)